

かめのり大学院留学アジア奨学生
月次報告レポート
(2017年9月夏の研修交流会 2017@広島)

■ 研究について熱く語り合える仲間、かめのりファミリーと「ヒロシマ」にて

今回初めて参加させていただいた夏の研修交流会は、9月10日から12日にかけて三日間行われました。場所は、歴史として「原爆」「戦争」「平和」というキーワードでよく知られている広島でした。私の専門が戦後日本史、詳細には運動史であるため、歴史のある場所に直接訪れて実際に観られたことはとても大事な経験でした。

初日、朝早く広島行飛行機に乗りました。日本全国いくつかの地域に行ったことはありますが、広島は初めてでしたので少し緊張しておりました。そして、かめのりファミリーの一員になってまだ数か月しか経ってなかったので、新入生として気合を入れていなければならぬと思いました。自分のなかで緊張感あふれる瞬間は、研究発表会まで続きました。一日目は、新入生の4人が発表することになりました。一緒に新しく入ってきた同期たちが自己紹介を含めどのような研究をされていることが分かるようになって良い刺激を受けました。私は研究発表することにあたってあまりにも緊張しすぎていたのか満足できないまま終わってしまいました。自己紹介も短すぎたと感じましたし、何よりも研究発表が進捗状況的にも物足りなかったと反省しました。自分が博士後期課程に進学したからこそ、「いったい私は何を研究したいのか」ともう一度再確認できる重要な場でした。

二日目は、先輩たちの研究発表とミニ講義、西田先生の特別講義が行われました。初日より緊張がほぐれるようになり、和やかな気持ちで聴けました。皆さんの発表すべてが印象深かったですが、そのなかでもサイカさんの「福沢諭吉の教育思想と儒学」とコウシンショウさんの「漢語「普遍」についての考察」が大変勉強になりました。サイカさんの研究と私の研究とは時代は異なりますが、同じ歴史研究ですから方法論を含めて非常に考えさせました。そして、コウシンショウさんの研究は「普遍」という言葉がとても興味深かったのです。その理由は私は指導教官のゼミでヘーゲルの『精神現象学』を読んでおりました、そこには「普遍」「普遍性」「普遍的」という言葉がよく登場するからです。その意味について考えさせる内容でもありますので、コウさんの講義を聴いてとても面白かったです。皆さんそれぞれの発表はもちろんそのなかでなされる議論も私にとっては貴重な経験でした。知らないところがあれば質問して、自然に議論がなされることで相互の考え方を共有することができました。私は研究する仲間からコメントをしてもらうことは嬉しいことだと常に思っ

おります。そのため、皆さんと一緒に研究について熱く語ったその時間が、夏の研修交流会の第一の思い出になりました。

三日目は、広島原爆ドームと平和記念公園とその資料館、そして宮島の大鳥居を見ることができる本格的なツアーでした。西田先生とは宮島までは一緒に行けませんでした。西田先生が前日特別講義でおっしゃった人生話をもとにツアーをしたら、そちらで生活をしている人たちが見えてきました。広島、宮島という空間のなかで、みずから生活基盤を築きながら、自分を「育つ」。そして、その空間というのはあらゆる歴史に基づいてつくられた。

「戦争」「原爆」「平和」だけではなく、昔ながらの歴史まで。留学生としてその空間を覗いてみることはとても大事なことでした。ありがとうございました。

来年の夏の研究交流会もとても楽しみです。